

本時のテーマ	思いを歌い方に生かす音楽科学習指導法の工夫
--------	-----------------------

- 1 題材 ようすをおもいうかべよう
- 2 目標
- 歌詞の内容から情景や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組む。  
(関心・意欲・態度)
  - 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像して、発声の仕方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。  
(音楽表現の創意工夫)
  - 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、発声の仕方や強弱の工夫をし、楽曲の気分に合った歌い方をする。  
(音楽表現の技能)

### 3 指導に当たって

#### (1) 児童の実態 (男子\*人, 女子\*人, 計\*名)

本学級の児童は、音楽を聴くと体が動き出したり歌を口ずさんだりと、音楽に対する関心が高く、音楽の授業が楽しいと答えた児童は、\*人中\*人だった。しかし、「キラキラしている」、「明るい」など、曲に対するイメージを言葉で表すことができる児童は\*人、「丁寧にやさしく歌う」といった、歌い方について答えられた児童は\*人と、少なかった。さらに、「やさしい感じだから、小さい声で囁くように歌う」のように、曲のイメージと歌い方の両方を答えられた児童はいなかった。このことから、曲に対するイメージをもつことや、音や音楽のもつ雰囲気を感じ取ることはできるが、意識的に音楽表現を工夫するまでに至っていないことが分かった。

#### (2) 指導観

本題材では、個の活動をグループやクラス全体で生かしながら、思いと歌い方を結び付けるような学習過程を設定する。第一次は、音楽表現の工夫の仕方を知る過程とし、1曲を全員で歌いながら、音楽表現の工夫を歌い方に結び付けるまでのプロセスを身に付ける。第二次を活用の過程とし、グループで選んだ曲を身に付けた力を活用して、音楽表現をつくり上げていく。その際、思いや考えを可視化するために、ホワイトボードや付箋、拡大楽譜などを使う。また、思いと歌い方が合っているか振り返ることができるよう、ICTを活用し、客観的に見直すことができる手立てを行う。

#### (2) 教材観

この題材は、学習指導要領(平成29年告示)A表現(1)歌唱ア、イ、ウ(イ)の内容を扱う。歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方を工夫することをねらいとしている。1年生の同じ題材で学習したことを生かし、さらに表現を豊かにするための感性をより高めることに重点を置いて学習を展開する。

「夕やけこやけ」では、1番と2番の歌詞の違いから、速度を変えて歌ったり、日常生活での経験を思い出して、そのときの気持ちを強弱や声の出し方の変化に結び付けて歌ったりするなどの工夫をしていく。また、「おてて つないで」の部分が曲の山になっていることを、旋律の音の高さで確認したり歌って感じ取ったりし、それを生かして強弱を工夫しながら歌うことができるようにする。このような歌い方の工夫を、「まっかな秋」にも応用し、思いと歌い方が結びつく学習活動を行う。

### 4 教材

「夕やけこやけ」 中村 雨紅 作詞 草川 信 作曲  
「まっかな秋」 薩摩 忠 作詞 小林 秀雄 作曲

### 5 学習計画 (5時間扱い)

#### ア 題材の指導計画 (5時間扱い)

圃・・・音楽への関心・意欲・態度 圃・・・音楽表現の創意工夫  
 圃・・・音楽表現の技能

次	時	学習目標と主な学習活動（○は目標，・は学習活動）	評価規準
一	1	○曲を聴いて曲想を感じ取り，どんなふうにか思いをもつ。 ・歌って，音程やリズムを確かめる。 ・ワークシートを使って，曲の山を考えたり，理由を付箋に書いたりして，考えをもつ。 ・拡大楽譜に付箋を貼るなどして，クラス全体で思いを共有し，整理していく。	<p>㊦ 歌詞の内容から情景や気持ちを想像し，思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>㊦ 歌詞の表す情景や気持ちを想像して，曲の山の歌い方について考えている。</p>
	2	○思いを歌声に結び付ける方法を考え，歌声を見直す。 ・歌詞に注目し，情景を想像して，その思いに合った声の出し方や発音の仕方を工夫する。 ・思いと歌声が合っているか友達と聴き合ったり録音したものを聴いたりして確かめる。さらに歌い方を見直す。	<p>㊦ 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら声の出し方に気を付けて，思いに合った歌声で歌っている。</p>
二	3	○曲を聴いて曲想を感じ取り，どんなふうにか思いをもつ。 ・歌って，音程やリズムを確かめる。 ・ワークシートを使って，曲の山を考えたり，理由を付箋に書いたりして，自分の考えをもつ。 ・グループで拡大楽譜に付箋を貼り，歌い方をまとめながら考える。	<p>㊦ 歌詞の内容から情景や気持ちを想像し，思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>㊦ 歌詞の表す情景や気持ちを想像して，曲の山の歌い方について考えている。</p>
	4	○グループに分かれて，思いを歌声に結び付ける方法を考え，伝え合い，歌声を見直す。 ・歌詞に注目し，情景を想像して，その思いに合った声の出し方や発音の仕方を工夫する。 ・思いと歌声が合っているか友達と聴き合ったり録音したものを聴いたりして確かめる。さらに歌い方を見直す。	<p>㊦ 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら声の出し方に気を付けて，思いに合った歌声で歌っている。</p>
	5	○聴いている人に思いが伝わるように気持ちをこめて歌い，今までの学習を振り返る。 ・学習した2曲について，歌う。 ・お客さんから感想をもらい，自分たちの演奏を振り返る。 ・学習前後の録音・録画を比べて，その違いを見付け，何を学んだか振り返る。	<p>㊦ 思いに合った歌声で歌っているか，振り返り，できるようになったことを進んで見付けようとしている。</p>

## 6 各時の指導

### (1) 第1時

- 目標 「夕やけこやけ」の範唱とイメージ映像から，曲の山をつかむ活動に意欲的に取り組む。  
(関心・意欲・態度)
- 教材 「夕やけこやけ」中村 雨紅 作詞 草川 信 作曲
- 準備・資料 拡大楽譜，タブレット，電子黒板，ワークシート，CDプレイヤー
- 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
1 常時活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を使った体操と発声練習をし，学習への意欲を高める。</li> <li>・様々な曲を使って，歌い方の工夫についての常時活動を行い，学習を進めるヒントとなるようにする。</li> </ul>
2 「夕やけこやけ」を歌って，曲のイメージを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を読むことで，情景が思い浮かび，イメージをふくらませる手掛かりとする。</li> <li>・範唱CDやイメージ映像などを手掛かりにして，曲のイメージが捉えられるようにする。</li> </ul>

3 本時の学習課題を知る。

「夕やけこやけ」のきよくの山を見つけて、  
どのように歌うか考えよう。

4 曲の山を見付け、歌い方について考える。

- (1) ワークシートで曲の山だと思ふところを囲み、そう思った理由を付箋に書く。(個人)
- (2) グループで、歌い方について、歌ったり話したりして、思いを伝え合い、共有する。

※ 予想される児童の反応

- ・音が高くなっているところが、「おてて つないで」のところだから。
- ・「夕やけこやけ」って曲の名前だから、はじめの部分じゃないかな。

- (3) クラス全員で曲の山と歌い方を話し合い、考える。
  - ・この曲は、やさしい感じがするから、なめらかに歌う。
  - ・曲の山は、「おてて つないで」だから、大きく歌う。

5 本時を振り返り、次時の内容を伝える。

・曲の山とは、曲の中で1番盛り上がる場所とし、「夕やけこやけ」の中で、根拠をもってその場所を探すことをねらいとしている。

- ・曲想についての思いを整理し、曲の山について常時活動を手掛かりにして、考える。
- ・曲の山だと思ふところを囲み、その理由を考えて付箋に書く。
- ・個人→グループ→全体と分けて活動することで、一人一人の考えを汲み取ることができるようにする。
- ・グループで交流する際には拡大楽譜に付箋を貼り、意見の共有がしやすいようにする。
- ・歌い方の工夫を言葉や歌で伝えながら、付箋を貼っていくことを確認する。
- ・発表して終わらないように、「どうしてそう思うの?」、「自分と同じだ(違うな)」などと、会話しながら共有していくことを確認する。
- ・各グループでまとめたものをタブレットで記録し、電子黒板を使って視覚化し、全員で比較、検討できるようにする。

関

曲のイメージをふくらませていく活動に意欲をもち、根拠をもって、曲の山について考えている。  
(観察, ワークシート)

- ・どんな曲にも、盛り上がる場所(山)があることを確認し、次時で、歌い方を工夫していくことを知らせる。

(2) 第2時

○ 目標

夕やけこやけの曲想や曲の山からどのように歌うか思いをもち、発声や強弱に気を付けながら、思いに合った歌声で歌う。  
(音楽表現の創意工夫, 音楽表現の技能)

○ 教材

「夕やけこやけ」中村 雨紅 作詞 草川 信 作曲

○ 準備・資料

拡大楽譜, タブレット, 電子黒板, ワークシート, CD プレイヤー

○ 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
1 常時活動を行う。	・既習曲を使って、歌い方の工夫についての常時活動を行い、学習を進めるヒントとなるようにする。
2 本時の学習課題について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     どんなふうに歌ったら、曲の山が分かるかな?                 </div>	・曲の山をまとめた掲示物を提示する。 ・歌声をよく聴くことが歌い方の見直しにつながることを伝える。
3 歌声を聴いて、歌い方について考える。 (1) 前時の活動を振り返り、歌い方を確認し、歌う。 (2) 歌ったものを録音し、聴く。 (3) 自分たちの歌声を聴いて、改善したいところをみつけたり、範唱 CD の演奏からよいと	・前時に考えた歌い方を確認し、タブレットを使って歌声を録音・録画する。 ・曲の山が分かるか、曲のイメージと合っているかという視点で聴くよう伝える。 ・範唱 CD のいいところを見つけて、付箋に書くことで、具体的な歌い方の工夫について知る。

ころをみつけて、付箋に書く。

- ※ 予想される児童の反応
- ・「タヤけ」の雰囲気あまりしないね。
  - ・「おてて つないで」のところは、もっと大きく歌いたいな。

- 4 話し合ったり、歌ったりして、歌い方を見直す。
- (1) 拡大楽譜を使って、歌い方を確認する。
  - (2) 2つのグループに分かれて歌い、タブレットで録音・録画し、歌い方がよりよくなったか確かめる。
  - (3) クラス全員で歌って、録音する。

4 本時のはじめに録音したものと、学習後に録音したものを聴き比べて、どんなふうに変ったか振り返る。

5 本時の学習をまとめ、次時は曲を変え、グループで音楽表現の工夫をしていくことを伝える。  
本時のまとめ

- ・曲の山は、ほかのところと歌い方を変える
- ・歌詞を伝えることが、思いを伝えることになる。

㊦ 自分たちが考えた音楽表現の工夫と歌いが合っているか、演奏を聴いて判断し、よりよい歌い方を考えている。  
(観察、ワークシート)

- ・歌い方の工夫について、発表させ、教師がまとめていく。その際、「どうしてそう思うの？」と問いかけながら、音楽表現の工夫の根拠を聞くようにする。
- ・さみしい感じ→音量を落とす、こそこそ話すようになど、教師が思いを歌い方に結び付けるように言い換え、具体的な表現につなげていく。
- ・歌い方の工夫が浮かばないときは、再び範唱 CD を聴くなどして、鑑賞活動を取り入れられるように準備をする。
- ・タブレットを使い、歌ったものを録音する。そして思いと歌い方が合っているか、視点をもって聴く。
- ・直したいところやみんなを確認したところを、拡大楽譜に書き加えていく。

㊦ 自分たちが考えた音楽表現の工夫を生かすために、発声や強弱に気を付けながら、思いに合った表現で歌っている。  
(観察、演奏の聴取)

- ・どんなところに気を付けて歌ったかや、どのようによくなったか、ワークシートに記入し、満足感や達成感を味わうことができるようにする。

- ・今日の学習で学んだことは何かを確認し、次時の学習への意欲を持たせる。

(3) 第3時

- 目標 「まっかな秋」と「ちいさい秋みつけた」の曲の山をつかみ、どんなふうに歌うか思いをもち、活動に意欲的に取り組む。

(関心・意欲・態度)

- 教材 「まっかな秋」 薩摩 忠 作詞 小林 秀雄 作曲
- 準備・資料 拡大楽譜、タブレット、電子黒板、ワークシート、CD プレイヤー
- 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
1 常時活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を使った体操と発声練習をし、学習への意欲を高める。</li> <li>・様々な曲を使って、歌い方の工夫についての常時活動を行い、学習を進めるヒントとなるようにする。</li> </ul>
2 「まっかな秋」を歌って、曲のイメージを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を読むことで、情景が思い浮かび、イメージをふくらませる手掛かりとする。</li> <li>・範唱 CD やイメージ映像などを手掛かりにして、曲のイメージが捉えられるようにする。</li> </ul>
3 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の山とは、曲の中で1番盛り上がる場所とし、それ</li> </ul>

きょくの山を見つけて、どのように歌うか考えよう。

- 4 曲の山を見付け、歌い方について考える。  
 (1) ワークシートで曲の山だと思ふところを囲み、そう思った理由を付箋に書く。(個人)  
 (2) グループで、歌い方について、歌ったり話したりして、思いを伝え合い、共有する。

※ 予想される児童の反応  
 ・音が高くなっているところが、「まっかなほっぺたの」のところだから。  
 ・「まっかな秋」って曲の名前だから、はじめの部分じゃないかな。

- (3) 選曲グループで曲の山と歌い方を話し合い、まとめる。

本時のまとめ

- ・まっかな秋の山  
 「まっかな ほっぺたの」  
 理由：音が高くなっている

- 5 曲の山を確認し、次時の活動につなげる。

それぞれの曲の中で、根拠をもってその場所を探すことをねらいとしている。

- ・曲想についての思いを整理し、曲の山について常時活動を手掛かりにして考える。
- ・曲の山だと思ふところを囲み、その理由を考えて付箋に書くようにする。
- ・個人→グループ→選曲グループと段階的に活動することで、一人一人の考えを汲み取ることができるようにする。
- ・グループで交流する際には拡大楽譜に付箋を貼り、意見の共有がしやすいようにする。
- ・歌い方の工夫を言葉や歌で伝えながら、付箋を貼っていくことを確認する。
- ・発表して終わらないように、「どうしてそう思うの?」、「自分と同じだ(違うな)」などと、会話しながら共有していくことを確認する。
- ・各グループでまとめたものを拡大楽譜で集約し、視覚化する。

■

曲のイメージをふくらませていく活動に意欲をもち、根拠をもって、曲の山について考えている。  
 (観察、ワークシート)

- ・曲の山を確認し、次時では、歌い方の工夫をしていくことを知らせる。

(4) 第4時

- 目標

「まっかな秋」の曲想や曲の山からどのように歌うか思いをもち、発声や強弱に気を付けながら、思いに合った歌声で歌う。(音楽表現の創意工夫、音楽表現の技能)

- 教材

「まっかな秋」 薩摩 忠 作詞 小林 秀雄 作曲

- 準備・資料

拡大楽譜、タブレット、電子黒板、ワークシート、CD プレイヤー

- 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 常時活動を行う。</p> <p>2 本時の学習課題について知る。  <div data-bbox="132 1653 726 1751" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">おきゃくさんにつたわるように歌うには、どうすればいいかな?</div></p> <p>3 歌声を聴いて、歌い方について考える。            (1) 前時に録音したものを聴き、歌い方を見直す。            (2) 範唱 CD の演奏からよいところをみつけて、ワークシートに書く。</p> <p>4 2つのグループで話し合ったり、歌ったりして、歌い方を見直す。            (1) 拡大楽譜を使って、歌い方を確認する。            (2) 2つのグループに分かれて歌い、タブレットで録音・録画し、歌い方がよりよくなったか確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習曲を使って、歌い方の工夫についての常時活動を行い、学習を進めるヒントとなるようにする。</li> <li>・曲の山をまとめた掲示物を提示する。</li> <li>・歌声をよく聴くことが歌い方の見直しにつながることを伝える。</li> <li>・曲の山が分かるか、歌詞が分かるか、曲のイメージと合っているかという視点で聴くよう伝える。</li> <li>・自分たちの演奏を振り返り、よりよい演奏を目指す。</li> <li>・範唱 CD のいいところを見つけて、書くことで、具体的な歌い方の工夫について知る。</li> </ul> <div data-bbox="770 1975 1471 2101" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■ 自分たちが考えた音楽表現の工夫と歌いが合っているか、演奏を聴いて判断し、よりよい歌い方を考えている。(観察、ワークシート)</p> </div>

- ※ 予想される児童の反応
- ・「まっかだな」はパツと目立つようにはっきり歌いたいな。
  - ・少しらっぽうに聴こえるよ。やさしく歌おう。
  - ・「しずむゆうひに」のところ、歌い方が変わってたね。

(3) クラス全員で歌って、録音する。

5 本時のはじめに録音したものと、学習後に録音したものを聴き比べて、どんなふう変わったか振り返る。

6 本時の学習を振り返り、次時の発表会に向けての意欲を高める。

- ・話合いの手引きを用意し、司会者を中心に児童だけで話合いができるようにする。
- ・歌い方の工夫が浮かばないときは、再び範唱 CD を聴くなどして、鑑賞活動を取り入れられるように準備をする。
- ・タブレットを使い、歌ったものを録音する。そして思いと歌い方が合っているか、視点をもって聴く。
- ・直したいところやみんなで確認したところを、拡大楽譜

図 自分たちが考えた音楽表現の工夫を生かすために、発声や強弱に気を付けながら、思いに合った表現で歌っている。

(観察、演奏の聴取)

に書き加えていく。

- ・どんなところに気を付けて歌ったかや、どのようによくなったか、ワークシートに記入し、満足感や達成感を味わうことができるようにする。

- ・今日の学習で学んだことは何かを確認し、活動の振り返りをする。
- ・今日の成果を称賛し、次時の発表会への自信を持たせる。

(5) 第5時

- 目標 聴いている人に思いが伝わるように、気持ちをこめて歌う活動に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)

- 教材  
「夕やけこやけ」中村 雨紅 作詞 草川 信 作曲  
「まっかな秋」 薩摩 忠 作詞 小林 秀雄 作曲

- 準備・資料  
タブレット、電子黒板、ワークシート
- 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題について知る。</p> <p>秋のミニコンサート(仮)をひらき、おきやくさんに歌で思いをとどけよう。</p> <p>2 選曲した歌を歌う。</p> <p>3 発表会を振り返る。</p> <p>※ 予想される児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん拍手してもらえたね。</li> <li>・声の大きさに気を付けて歌えたから、さみしい感じが伝わったね。</li> <li>・最初に歌ったのと、全然違うね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサートの会場を準備し、歌う気分を高める。</li> <li>・コンサートの名前や、歌う順番を前もって話し合っておく。</li> <li>・「思いを届ける」とはどんなことなのか、お客さんに聴いてもらうことの意義を確かめる。</li> <li>・発表するときは無伴奏とすることで、速度の変化など音楽表現の工夫が自由にできるようにする。</li> <li>・歌う前の曲紹介の中で、表現の工夫について知らせることで、聴く視点ができ、感想がもちやすくなるようにする。</li> <li>・聴いている人から感想をもらい、自分たちの演奏が伝わったかどうか確かめる。</li> <li>・学習前に録音・録画しておいたものを見返し、発表会の映像と比べることで、学習の成果と満足感を味わえるようにする。</li> <li>・振り返るための観点を明確にしたワークシートを使い、何を学び、できるようになったかを実感できるようにする。</li> </ul>

4 学習のまとめをして，次時の活動を知らせる。  
本時のまとめ

曲の山の歌い方を考えて歌うと，思いが  
伝わる。

関

思いに合った表現で歌っているか振り返り，できるようになったことを進んで見付けようとしている。  
(観察，ワークシート)

・できるようになったことを整理し，他の曲にも生かせるようにまとめるとともに，頑張りを認めて，称賛する。